

## 第2回次世代育成協議会第一部会（子ども育成）概要

平成18年1月18日(水)午後2時より  
区役所本庁舎3階 301会議室

出席者 坂内夏子、鈴木邦子、増田玲子、武田厚子、原克弘、立花加代子、坂本悠紀子、  
平野克彦、片山典明、菊池義和、新宿警察署長代理 生活安全課 課長代理 柳  
川浩介、新宿少年センター所長代理 福田稔

### 1 開会 福祉部長挨拶

### 2 事務局より

- (1) 資料確認
- (2) 次世代育成支援シンポジウムの説明及び案内
- (3) 3月29日第二回次世代育成協議会開催の案内

### 3 議事

部会長・・・前回課題をだしてもらいました。具体的な解決策の検討を予定しています。  
資料のように整理しました。

#### 1 子どもの居場所をどのように確保していくか。

地域のなかにさまざまなプログラムがあり、縦割りの状態である。いろいろなプログラムの予算を整理し、事業を統括して、プログラムをまとめていくことも必要ではないか。

子どもの居場所にかかわる関係機関が連携をとったり、役割分担したりするなど、無駄のない実施をすべきではないか。

学校単位だけでなく、私立に通っている子を含め、地域や日常の活動のなかで居場所を考えるべきではないか。

まもなく、団塊の世代が定年を迎える。居場所づくりに世代間交流が必要ではないか。そのためには、バリアフリーなど施設の条件面もある。

#### 2 夢のある教育をどのように実現していくか。

#### 3 私立幼稚園等に通う子どもへの支援

事前提出された課題及び課題解決の方策案について各委員からご説明いただきたい。

委員・・・活動には助成を受けているものと助成を受けていないものがあると思うが、助成を受けていないものも、何をどういう目的でやっているかということによって、一つの団体がやるのではなく、共同でやっていきたい。地域で同じような活動を、ばらばらな形でやっているために、子どもたちが、行事が多すぎて、分散しているように見受けられる。経済的なこと、事務的なこともあり、目的を同じにしているものはまとめていくことを提案したい。

委員・・・テレビなどで最近の子どもを巻き込む事件が報道されている。どうしたらよいか、子どもをじっくり遊びに行かせることができるか、不安になってしまう。

親だけでなく、まわりのおじいちゃん、おばあちゃんにも子どもたちに声掛けをしてもらえるとよい。

居場所もそうだが、そこに行くまでの間に何かあったら困ると不安に思っている。

委員・・・居場所はハードである。ソフト面としてそこで何をすることが大切である。夢や希望を核として、みんなで子どものことを考えていきたい。いろんな関係団体が一緒になって運営すること、たとえば、企業の活用を提案する。学校を企業に貸出し、新宿区民が利用する場合には助成するとかすれば、企業も区も子ども

もプラスになる。

委員・・・子どものために育成会等、いろいろな団体が活動しているが、これらをまとめ、より多くの人に参加できるようにしていくことが必要。子どもを持つ親も、地域にお願いするばかりでなく、積極的に参加してもらおう。

委員・・・私立幼稚園の園長会代表として参加している。21世紀の区立幼稚園ビジョン検討の会に参加したが、その会議の資料で、学校運営課がおこなっている幼稚園の提言で「区立幼稚園の転換期というなかで、教育的見地からも園児数10名そこそこの小規模学級では集団保育の効果が望めないうえに、単学級では職員の切磋琢磨もできず、園児にとっても職員にとっても望ましい環境とはいえない状況にある・・・」と書かれている。少人数で地域への協力も望めない。公立、私立の隔たりなく学級編成を考えていくとされれば、子どもたちにとって望ましい環境づくりになると考える。

委員・・・居場所づくり事業は様々なところでおこなわれている。今年の賀詞交換会で区議会議長が「子どもに路地裏を返せ。子どもに時間を返せ。子どもにかかわる大人を返せ。政策を転換する時期」と挨拶していた。子どものための居場所づくり事業をさらに統括して、子どものための役立つシステムづくりをしていきたい。

委員・・・PTA活動する中で感じたことを課題とした。資料1のように様々な方が係わっている。

居場所づくり事業の目的を再認識する必要がある。子どもたちが安心して過ごすことのできる場所、地域のどの子どもたちも参加できることである。

地域に定着できる事業、校庭開放のようにいつもやっていることが必要である。

子どもたちはどんなことをしてほしいと考えているか。子どもの視点にたち、子どもの意見を聞きながら実施する必要がある。大人が企画し一方的に与えるのでは、子どもが集まらない。和太鼓を叩くイベントをやったら、最初参加者が0であった。子どもたちがどういうものに興味を持っているか把握することが必要。

対象年齢にあった施設を有効に活用していく。ゆったりーのは就学前、小学生低学年は児童館、中学生は地域センターなど。

頻度の問題もある。先ほどの校庭開放のようにいつも同じ曜日・時間に決められてやっている、子どもは行きやすい。一回だけのイベントは定着しない。お金をかけない方法を考える。地域で子どもを受け入れる場所、核となるものは必要で、リーダーとして上にたってやっていく大人、地域センターが中心になりやっていく。

部会長・・・今までの発言に対する何か質問はあるでしょうか。

生涯学習振興課長・・・次世代育成支援計画では、学校を核とした子どもの居場所づくりとして位置づけている。しかし、居場所といった場合、教育委員会だけでなく、新宿区全体での居場所ということで理解している。学校での居場所の目的は子どもたちが安全で安心できる居場所づくりであり、学校施設を子どもたちが安心して過ごせる場にしようというものである。地域の力で居場所づくりという趣旨であり、私立のお子さんも参加しているものも多数ある。効率的運営についてのご意見はもっともである。どこにも行き場所がない子が参加できる視点を持っていきたい、そうした検証が必要と考えている。

生涯学習振興課・・・教育委員会では、参考資料「主な居場所事業団体」のうち、1～3が関わっている、子どもの居場所事業、スポーツ交流会、校庭開放の事業について、担っていただいている方々が重複していることもあり、統合する検討をしている。

委員・・・どこにも行けない子の居場所といわれたが、私たちはより多くのみんなが参加できるように考えていた。居場所の意味はどうなるのか。

生涯学習振興課長・・・より多くの子どもたちの居場所になってほしいのはもちろんで

ある。昨年度の調査の結果で、どこにも行き場所がないし、やりたいこともない、そういう子どもにこそ、居場所は必要とされているのではないかと、といった結果になった。その視点も大事にした取組みと、その検証ができないかと、いうことである。

委員…どこにも行き場所がないと言っても、両親が働いていて行けない ひきこもり 親から虐待を受けている、といったカテゴリーの違いによっても対応が違う。どこに焦点があるのか。

生涯学習振興課長…あくまでアンケートの話なので、ひきこもり等と絞っていない。中身の話まではしていない。

委員…人数的に少なくともかまわないということか。お金を使うことで参加数を気にしていたが。

委員…人数により予算を組むものなのか。

委員…中身で組んでいる。

委員…人数が少ないのであれば手伝いも少なくてもすむのでは。

委員…当日おこなわないと人数がわからない。予想人数より参加が少なければお手伝いが多いぐらいになってしまうこともある。

委員…人数が少ないと教育的観点から子ども同士が交流を深めることも むずかしいと思う。

委員…アンケート結果、どこにも遊びに行くところがなさそうな子ども、そのフォローはどうしているのか。学校でやったアンケートであれば、その子の状況がわかるのでは。自分たちの会では、相談窓口というのを載せているが、年に4件ぐらい親で今から死にたいという電話がある。そうしたときは、何が何でもあって話すとかが、2時間3時間かけて話をすると、個々の対応をしている。アンケートをとった結果が腑に落ちない。そういう子どもたちが遊ぶ場所を用意すると、ごく少数の人を対象にするものと、多くの人を対象にする行事とでは、まったく違うと思う。たとえば、牛込筆笥で8団体が協力してやっている子育ての行事は、料理をするクラス、理科の実験をするクラス、囲碁のクラス等、いろいろなことに適応できる行事をしている。フォローに関心をもった。

生涯学習振興課長…居場所に関するアンケートで、一人だけで過ごすと答えた子どもが18%くらいいた。個別の支援が必要な子どもには、学校ですでに支援しており、アンケートは、子どもたちの生活実態を把握して居場所について考える手立てにしようとしたものである。フォローについては、スクールコーディネーターに対して、こうした視点をもつようお願いしている。

委員…アンケートの結果を見せてもらうことはできないのか。

生涯学習振興課長…校長会の研究活動の資料なので、公表用ではない。

委員…18%は結構な数字である。楽しかったことを発信することにより、これならば自分もできると思うことが大切である。

委員…子どもの心理はいろいろである。事業の中に全部用意することは難しい。連携をとりながら90%なら90%の子どもをねらって、その子どもに対する方策を考えていく必要がある。

部会長…居場所づくり、つくる中身をどうするか。子どもにとって望ましい環境づくり、それぞれ活発にやっているが、子どもにとってどうなのか、考えて生きたいと思う。居場所をつくる、そこに、いろんな方がかかわる、また、居場所に行くにも安全が確保されないなどという意見もあった。いろいろな部分で課題がつかまってきていると思う。日々の活動の中で、具体的などころで話をしてほしい。

委員…次回3月の協議会までに部会として何をしていけばよいのか。文章化するのか。提言方式にするのか。

子ども家庭課長…文章化できればよいが、今の議論を発表する方法もある。

委員…課題の多かったものに絞り議論していくほうがよいのでは。  
子ども家庭課長…協議会としての提言をいただければ、区としての対応策を検討して協議会に回答していく。

部会長…1居場所の に絞り議論していけばと考える。  
委員…1居場所が主題でも、2夢、3私立幼稚園も包括して課題としてもらいたい。  
部会長…2夢、3私立幼稚園もつながってくると思うので、まとめていく。  
委員…資料「主な居場所事業実施団体等」の1～3は教育委員会としてまとめていくとの報告があったが、11～18にも動きがあるのか。

子ども家庭課長…11～17が子ども家庭課の所管である。13～15は17年度から子ども家庭課に次世代育成との考えで所管することになった。次世代育成協議会も青少年問題協議会からリニューアルした。区としては、様々な団体がお互い知り合って、情報を共有できる場をもって連携できるようにしていきたいと考えている。

児童館、育成会も同じ所管となり、連携が取り合えるようにしていきたい。それは学校も同じで、教育委員会とも連携し、地域の方が動けるようにしていければと考えている。方法などについて、ぜひ、ご提言いただきたい。

委員…区から委託されている事業、助成されたり支援されたりしている事業、まず、区の部局が連携していくことが第1段階である。区の中で総合、整理してみたらどうかと思う。次に地域ごとに、団体組織と深めていってはどうか。

福祉部長…居場所づくりの課題として、「地域のなかにさまざまなプログラムがあり、縦割りの状態である。いろいろなプログラムの予算を整理する」という具体的な提案がある。区が直接やっているものと、団体助成的なもの、経過段階において同じことをやっているものがあれば、そういうご指摘をいただきたい。そうすると、より具体的な話になると思う。

委員…同じプログラムになっているかどうか、分かる場がない。協議する場がない。

委員…どこがまとめていくのか。

福祉部長…情報のターミナルはどこがよいか。詰めていけばよいのではないか。

委員…地域センターがよい。  
委員…地域センターにも掲示板があればよい。  
委員…幼稚園の保護者は図書館に情報があると便利である。

福祉部長…区域はどういう方法がよいか。詰めていけばよい。  
委員…筆筈は8団体の連絡会があり行事日程等を調整している。

福祉部長…呼びかけはどこか。  
委員…管理運営委員会である。

委員…学校の居場所は中学校区であり、地域センターの区域と異なっている。

福祉部長…情報共有の単位を決めていけばよい。  
委員…子育て通信、情報を自主的に集めて発行している団体と連携するのがよいのでは。今あるものを使っていく。

委員…区役所の中で連携を考えていく。協議会をつくるなど。

委員…子どもたちに情報のピラを1枚出せるくらいになってほしい。出せるということは組織もしっかりなっている。子どもがその中から選べるように。

委員…子どもたちが、喜んで、楽しく、参加できるものを。  
委員…あとは中身の問題。子どもが行きたいと思うものを。  
委員…子どもが興味のあるものを企画しないと。  
委員…年齢層も。  
委員…昔は良くても、今は違う。若い人の企画を。  
委員…新しい人が企画していく。

委員・・・（活動事例を数々紹介）まめまき、つりぼり大会等、子ども参加型で、また、  
上の子に教え、その子が下の子に教えるようなやり方で、うまくいっている。

委員・・・子どもが参加することがよい。

委員・・・地域の活動の事例発表を。

福祉部長・・・成功事例を発表して説明してもらおうなど。

部会長・・・まとめとして

情報の交通整理と共有化をひとつひとつおこなっていく。

中身として子どもを主体としていく。

事例情報の交換をおこなっていく。

地域には、学校、地域センター、いろいろな場所があるので、私立も含めて  
考えていく。

事務局とまとめ、3月29日の協議会に報告していく。